

●艦隊條例

明治二十七年六月十八日(勅令(七一))

明治三十年十月三五六號消滅

艦隊條例

- 第一條 軍艦三艘以上ヲ以テ編制スル兵力ヲ艦隊ト稱ス
- 第二條 艦隊ハ之ヲ常置シ又ハ臨時編制ス其ノ名稱ハ特ニ勅命ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 艦隊ニハ水雷艇及運送船等ヲ附スルコトヲ得
- 第四條 常置シタル艦隊平時ノ巡航區域ハ本邦周海トス但ニ艦隊以上ヲ常置スル時ハ各其ノ巡航區域ヲ定ム
- 第五條 艦隊ニ司令長官ヲ置キ大將、中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 大將若クハ中將ノ司令スル艦隊ハ其ノ下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス

第七條 司令長官、司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

| | | | | | |
|-----------------------|-----|------|-----|-------|-------|
| 參謀長 | 參謀 | 秘書 | 航海長 | 機關長 | 軍醫長 |
| 大將司令長少將若ク 官タルトキハ大佐 | 一少佐 | 主計少監 | 大佐 | 一機關大監 | 一軍醫大監 |
| 中將司令長大 | 一少佐 | 大主計 | 一少佐 | 一機關大監 | 一軍醫大監 |
| 少將司令長大 | 一少佐 | 大主計 | 一少佐 | 一機關大監 | 一軍醫大監 |
| 官タルトキハ大尉 | 一少佐 | 大主計 | 一少佐 | 一機關大監 | 一軍醫大監 |
| 司令官幕僚 | 大尉 | 二大主計 | 一 | | |

艦隊ニハ主理ヲ置キ又外國ニ航スルトキハ時宜ニ依リ譯官トシテ文官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第八條 司令長官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ承ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第九條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第十條 司令長官ハ幕僚ヲ率ヒテ旗艦ニ乗組ムヘシ但旗艦ニ故障アルトキ又ハ指揮上一時他艦ニ移ルヲ必要ト認ムルトキハ其ノ間他艦ニ移ルコトヲ得

第十一條 司令長官ノ職務執行ハ其ノ將旗ヲ旗艦ニ掲ケタル時ニ始マリ之ヲ卸シタル時ニ終ル

第十二條 司令長官ハ麾下ノ艦船ヲ分遣スルコトヲ得

第十三條 司令長官ハ麾下ノ艦船ヲ分遣スルトキハ麾下ノ司令官若クハ先任艦長ヲシテ其ノ指揮ヲ掌ラシメ其ノ職權内ノ事ヲ委任スルコトヲ得

第十四條 司令長官艦隊ヲ引率シテ航行スルトキハ針路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ら責ニ任スヘシ

第十五條 司令長官ハ麾下ノ職員事故アルトキ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

司令官若クハ先任艦長艦隊ヲ引率スルトキモ亦同シ

代理セシムルコトヲ得

第十六條 司令長官ハ麾下ノ候補生並ニ准士官以下ヲ麾下ノ艦船間ニ轉乘セシムルコトヲ得

第十七條 司令長官ハ戰時若クハ事變ニ際シ同港内ニ在ル他管ノ軍艦兵員ヲ指揮スルコトヲ得但軍港内ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十八條 司令長官ハ事情之ヲ必要ト認メ且時機切迫指令ヲ仰クノ暇ナキトキハ巡航區域外ニ麾下ノ艦船ヲ差遣スルコトヲ得

第十九條 司令官ハ幕僚ヲ率ヒテ司令長官ノ指定スル旗艦ニ乗組ミ其ノ麾下ニ屬スル艦船ヲ指揮ス

第二十條 司令官(司令官ヲ置カサルトキハ先任順序ニ依リ先任艦長若クハ參謀長)ハ司令長官死亡シ後任者未タ定ラサルトキ若クハ事故ニ依リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ其ノ職務ヲ攝行スヘシ

第二十一條 司令長官、司令官幕僚ノ中航海長、機關長、軍醫長ヲ置カサルモノハ旗艦ノ航海長、機關長、軍醫長ヲシテ其ノ職務ニ參與セシムルコトヲ得

第二十二條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其ノ機務ニ參シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス

第二十三條 司令長官ノ幕僚タル參謀ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ服務ス

第二十四條 司令官ノ幕僚タル參謀ハ司令官ノ指揮ヲ承ケ服務ス

第二十五條 司令長官ノ幕僚タル秘書ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ庶務ヲ掌ル

第二十六條 司令官ノ幕僚タル秘書ハ先任參謀ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

- 第二十七條 航海長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ航路ニ關スル事ヲ掌リ各艦航海長ノ職務ヲ監視ス
- 第二十八條 機關長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ機關ニ關スル事ヲ掌リ各艦機關長ノ職務ヲ監視ス
- 第二十九條 軍醫長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌リ各艦軍醫長ノ職務ヲ監視ス
- 第三十條 主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行シ司令長官ノ指揮ヲ承ケ裁判懲罰其ノ他軍事司法ニ關スル事ヲ掌ル